



Title	ポストコロナにおけるオンライン言語学習の在り方
Author(s)	金, 庚民
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2022, 23, p. 11-12
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/92455
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ポストコロナにおけるオンライン言語学習の在り方

金 庚民（大阪大学 基礎工学研究科 システム創成専攻）

1. はじめに

2020年にCOVID-19を経験した我々は、ありとあらゆる分野におけるデジタルトランスフォーメーションを余儀なくされた。特に教育分野での変化は目覚ましく、オンライン授業や配信コンテンツの重要性は非常に高くなっている。では、言語教育においては、どのような変化が求められるだろうか？

本稿では、筆者が岩居弘樹先生、大前智美先生と一緒に韓国語学習コンテンツを作成しながら得た気づきや、ノウハウを述べていきたい。

2. オンライン言語学習のハードル

言語の学習において最も重要なことは、その言語に頻繁に触れ・使用することである。しかしポストコロナにおいては人と対面し、その言語を使って会話するという機会が減るため、ICT技術を用いたオンライン言語学習の重要性が高まると考えられる。

これまで、大学を初めとした様々な教育機関がオンライン授業を導入してきたが、文部科学省の調べによると図1のような問題点が挙げられている[1]。

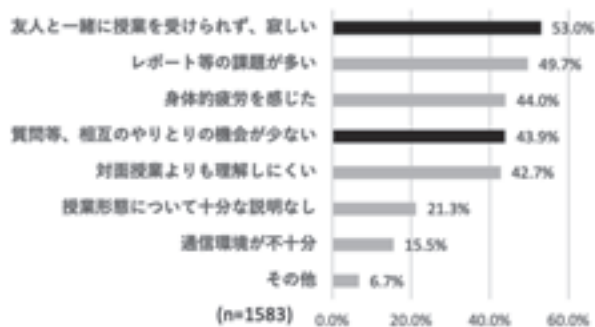


図1：オンライン授業の問題点（文科省アンケート）

特に注目すべきは、1位・4位に挙げられているような、「人との関わりがない」ことに対する不満である。言語を学習する主たる目的の一つは、人と関わり繋がることであり、オンラインだからこそ**インタラクティブなコンテンツの準備が重要**と言える。

そもそもオンライン授業は、2つのタイプに分け

ることができる。一つ目はZoom等のWeb会議システムを用いた「リアルタイム型」で、二つ目が録画された映像等を配信する「オンデマンド型」である。

筆者は、これらの両方のタイプをコンテンツに合わせて使い分けることが、インタラクティブかつ効率の良い言語学習になると考えている。では、ここから実際の韓国語コンテンツを紹介していく。

3. リアルタイム型：耳と口の訓練

馴染みのない言語を初めて学ぶとき、最も重要なことはなんだろうか？筆者らは「**耳と口の訓練**」が言語学習の大切な一歩であると考えている。つまり、その言語特有の音に耳を慣らし、自分の口でそれを真似できるようになることである。

そこで、筆者らは「市民講座 Online! 複言語学習のススメ」¹というリアルタイム型授業を進めてきた。ここでは外国語を学びたい市民の方を幅広く募集し、文字や文法は使わず、ほとんど耳と口だけで音を覚えることで、45分のZoomセッションで約4つの言語にチャレンジしてもらった。

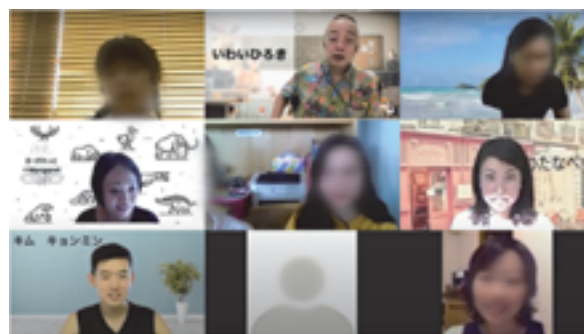


図2：市民講座 Online!のセッションの様子
(ぼかし有：参加者、ぼかし無：講師)

図2は実際のセッションの様子であるが、ぼかしが入っているのは参加者の方で、それ以外は講師である。ここでは、ドイツ語・韓国語・フランス語・インドネシア語の4つの言葉で「こんにちは」、「私の名前はOOです」、「私はOOから来ました」、「あ

¹ <https://www.g.les.cmc.osaka-u.ac.jp/2021-online>

りがとう」などの挨拶やフレーズを覚えてもらった。カタカナ等で書き起こした文字を読むのではなく、講師の生の発音をそのまま耳で聞いて口で真似するというにより、高い学習効果が得られた。

このように学習したフレーズを忘れることなく覚え続けるためには、自分の発音を記録に残し、忘れてきた頃に見直すことが効果的である。そこで筆者らは Flip[2]という動画共有サービスを用いた(図3)。

もし授業で学んだフレーズを忘れてしまっても、講師がアップロードした動画を視聴しながら自分で復習することができる。このように覚えたフレーズを自らの口で発音し、それを録画し Flip 上にアップロードしてもらおう。加えて、アップロードされた動画に講師からフィードバックを残すことで、更にモチベーションの向上を図ることができる。

市民講座を受けた後、学習した言葉に興味を持ち、文字についても学習したいという声があり、4章のようなオンデマンド型コンテンツを作成した。

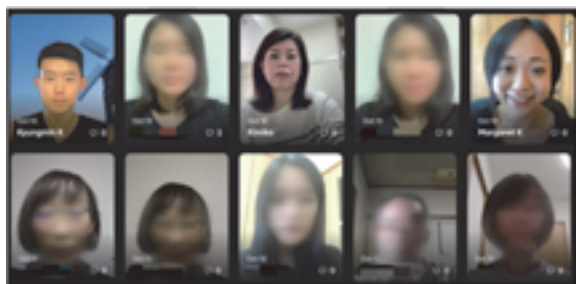


図3：講師・参加者による、学習したフレーズの録画
(ぼかし有：参加者、ぼかし無：講師)

4. オンデマンド型：ハングル文字の習得

オンデマンド型のコンテンツに関しては、フィードバックがすぐに得られず、講師側が一方向的に配信するコンテンツになりやすく、学習者が集中しにくい・学習効率が落ちるといったリスクがある。

筆者らはこのような問題を克服する為、インタラクティブな UI を活用して学習者に能動的な学習を促すことができる動画プラットフォームサービス‘Mindstamp’[3]を使用し、ハングルの文字講座コンテンツ²を作成した。

図4は、ハングルの成り立ちを説明している講座の一画面で、子音と母音の違いや組み合わせの方法を紹介している。ハングル文字に慣れていない初学

者を想定しているため、スライド上の文字の色分けなどの工夫だけでなく、Mindstamp の Hotspot ボタン機能を活用している。動画を視聴している途中に現れた Hotspot ボタンを押すと、予め用意した文字・写真・ウェブサイト等を表示することができる。

このようなインタラクティブな機能を用い、オンデマンド型のコンテンツでも能動的な学習を促すことにより、学習者が飽きずに集中できる言語学習が実現できると考えられる。



図4：Mindstamp の Hotspot 機能を活用した例

5. おわりに

様々なサービスを効果的に組み合わせ、オンライン言語学習コンテンツを創り上げることは容易なことではなかった。それを手助けしてくださった、岩居先生・大前先生を始めとしたサイバーメディアセンターの方々にお礼を申し上げたい。

今後の市民講座もお楽しみに！

参考文献

- [1] 文部科学省「新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の学生生活に関する調査(結果)」、https://www.mext.go.jp/content/20210525-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf(2022/7/26 参照)
- [2] Flip、<https://info.flip.com/>、(2022/8/18 参照)
- [3] Mindstamp、<https://mindstamp.io/?via=9ff041>、(2022/8/19 参照)

² <https://myinteractive.video/w/ufbnsoSeYJsr>